

公的年金ファンドの運用規模は

昨年後半、内外株式市場の話題をさらったのが政府系ファンド（Sovereign Wealth Fund、SWF）の台頭である。特にアジアや中東の SWF による欧米の有力金融機関へ出資が相次いで報じられた。SWF は純粋な年金基金ではない。しかし、日本の公的年金運用の資産運用規模の問題に1つの示唆を与えている。

これらのファンドの運用資産は総額 300 兆円に及ぶ。とはいえ、個別にはアブダビ投資庁の推計 100 兆円は別として、ノルウェー政府年金ファンドなど多くの SWF が 30~40 兆円規模である。

オランダの ABP、アメリカのカルパースなど年金基金にも 30 兆円前後を、リスク資産を含めたポートフォリオに積極的に配分・運用し実績をあげている例がある。一方、日本の年金積立金管理運用独立行政法人の運用資産は 120 兆円あり、一元化後には公的年金積立金が計 200 兆円を超えるという。確かに 120~200 兆円規模の資金になるとマーケットへのインパクトが大きく、市場運用するのが決して容易でないだろう。ガバナンスと運用体制の整備を大前提とした上で、グローバルな市場で効率的なポートフォリオ運用を手がける基金の規模としては 30~40 兆円が上限の1つの目安になるのかもしれない。

《目次》

- ・ (年金運用) : ファンドメンタル・インデックスは単なるバリュート投資か
- ・ (証券市場) : 株主構成の変化、何が重要か
- ・ (年金運用) : 2008 年日本株投資戦略 ~バリュートは復活するか?~